

◎グレーバー Who?

1961年 ニューヨーク生 イェール大学を経てLSE教授  
1999年のシアトル反WTO闘争  
2012年ウォール/ストリート占拠  
のリーダー

◎(第1部) 問題提起

▼第1章 モラルの混乱の経験  
/25- 2008年9月の金融危機の評価

▼第2章 物々交換の神話

▼第3章 原初的負債

▼第4章 残酷さと償い

◎(第2部) 視点

▼第5章 経済的諸関係のモラル的基盤  
/181- 負債とは何か

▼第6章 生と死のゲーム

▼第7章 名誉と不名誉 or 現代文明の基盤/249-

◆名誉とは/254-

ここから奴隷論

/254 奴隷への四つの経路 アル・ワヒード説

捕虜

犯罪(負債を含む)に対する処罰

父権による売却

自己売却

/257 オランダ・パターソン 世界の奴隷制の歴史 1982

名誉剥奪状況

/258 初期アイルランドでは牛と少女奴隷が貨幣として使われていた

王の名誉毀損に対して牛21匹または少女奴隷7名

修道院長の名誉に対して洗濯奴隷

◆メソポタミア/266-

◆古代ギリシャ/281-

/281 ポピュリスト

/283 ヴェールの着用はギリシャで普及

/290 利子は子孫を意味した

◆古代ローマ(所有と自由)/298-

/298- ローマ法

/303 債務奴隷の廃止←戦争捕虜を供給できる. 被征服者にやらせる

/304 奴隷は不運であり無能ではない

◎(第3部) 歴史

◆いくつかの結論/312-

▼第8章 信用対地金 /320-

/320 奴隷制は何故消滅したのか

/321 古代奴隷制の消滅 600年頃 インド・中国でも同じ頃

★貨幣, 負債, 信用の歴史の再検討

/322 硬貨鑄造(圧造)開始 前500-600年頃 中国北部大草原, ガンジス川流域, エーゲ海周辺

/322 600年頃(=奴隷制消滅と同時代)から硬貨制から信用取引に回帰(戦争による硬貨不足)

戦争の時代: 中国の戦国時代, ギリシャの鉄器時代, インドの前マウリア時代が該当

/324 ユーラシア大陸の歴史の中で考える

▲/324- メソポタミア(3500bc-800bc)

有利子の信用貨幣が支配的

粘土の銘板上のキクイ文字記録による信用取引

銘板が約束手形=貨幣として流通していた

春の新年祭に借金は帳消しにされた(/328)

騒乱による経済秩序の崩壊の根を断ち切るため

▲/329 エジプト(2650bc-716bc)

有利子負債の発展による騒乱回避に成功

定期的な債務帳消しが制度化

ロゼッタ・ストーンは前196に行われたプトレマイオス5世による債務者と囚人の恩赦の告知分書(エジプトの象形文字, 同民衆文字およびギリシャ語). シャンポリオンがエジプトの文字を解読.

▲/332- 中国(2220bc-771bc)

タカラガイ・青銅による模造品等

▼第9章 (拡大) 枢軸(Axis)時代 前800-後600年 /336-

ヤスパース: (狭義) 枢軸時代 前800-前200

ゾロアスター

ピタゴラス 前570-前495

ブッダ 前563-前483

孔子 前551-前479

★鑄造硬貨の発明と同時代かつ同地域

世界初の硬貨は前600年頃西アナトリアのリュディア王国で作られた /337

インド/中国でも

素材は金, 銀, 銅. 戦争で略奪の対象に

戦争/軍隊の変容(貴族+家臣→商業軍人含む傭兵)

傭兵への支払

後期枢軸時代(霊魂Spitual時代) 前200-後600 /337

ユダヤ教

仏教

ジャイナ教

ヒンドゥー教

儒教

道教

キリスト教

イスラム教

★枢軸時代(広義: 前800-後600年)には主要宗教の誕生が全部含まれる /332

Siritual Age(宗教・哲学の時代)

鑄貨が発明された時期・場所に対応(黄河周辺, ガンジス河周辺, エーゲ海沿岸部)

関連性は何?

/338-

前600年頃

アナトリア(リュディア王国)で世界最初の硬貨鑄造 ギリシャ, ペルシャに普及

インド・中国でも

貴金属(金, 銀, 銅)の脱宝物化

/341

戦争多発との関連

貴重品の略奪

傭兵(ギリシャの重装歩兵による密集方陣戦略の普及)への支払い  
戦利品の分配  
市場での流通

/342

鑄貨・軍事力・思想の噴出の関係

◆地中海世界 /342-

金・銀は戦争で捕虜にされた奴隷(または戦争で獲得した奴隷)によって採掘されていた

/343

軍事=鑄貨複合体(Geoffrey Ingham)

軍事=鑄貨=奴隷複合体(Graeber)

/344 「軍事=鑄貨=奴隷複合体」

◆インド /348

◆中国 /353-

▼第10章 中世(600-1450) /376-

ペスト→賃金の劇的な上昇

金銀の流入(1520-1640)によりそれ以上に物価が上昇

実質賃金は4割下落

◎(第4部) 近・現代

▼第11章 大資本主義帝国の時代 1450-1971 /456-

「大航海時代」にはじまる

1450年頃

仮想通貨と信用経済からの離脱・金銀への回帰

アメリカ大陸からの銀地金の流入がこの流れを加速

価格革命→伝統的社会的転覆

中世時代に抑制されていた

巨大帝国

商業的軍隊

大規模な侵略戦争

無制限の高利貸し

負債懲役制度

などが復活

また

唯物論的な哲学の復活・新しい科学的哲学的創造性の復活

1400年代は破局の連続の時代

ペストの襲来 1340-

商業経済の衰退

都市の破綻

借金の返済不能

オスマン帝国がビザンツ帝国の残存領域の併合・中央アジアへの進出, 陸海における勢力拡大

―――  
多数の農民や都市居住者にとってはいい時代

賃金の急激な上昇

賃金凍結や反動政策により民衆蜂起の連鎖 ex. ワット・タイラーの乱

祝祭日(年の3分の1乃至半分には達していた)の制限

▼第12章 1971年以後 /533-

▼あとがき